

「研究テーマ」

新聞を用いた多面的な社会の理解の推進と公民的資質の形成 ～地歴公民の授業を中心に～

兵庫県立篠山東雲高等学校 校長 丹後 政俊

教諭 池田 敏晃

◇はじめに

本校は平成25年度よりNIE実践校の指定を2年連続で受けた。これを受けて本校では地歴公民科を中心として新聞を利用した授業展開の研究を実施した。本稿においては今年度の取り組みと、来年度に向けた課題を地歴公民科での取り組みを中心に述べたい。

◇本校の現状と課題

本校は篠山市の東端に位置し、平成23年に篠山産業高校から分離独立して出来た「兵庫県で一番小さな」、「古くて新しい」農業高校である。全校生徒は一学年一クラスの115名という小規模校である。例年卒業生の約3分の2は就職希望で、その中で大半の生徒が地元の企業に就職している。

本校の生徒の課題としては、小中学校において基礎的な学力が定着していない生徒が多く、そのため自尊感情が低い生徒が多い。また、基礎学力の不足により社会における一般常識が欠如している生徒が数多く見られるという課題が存在する。

◇NIEを導入することによるメリット

1. NIE実践校の指定を受けるメリット

① 無料での新聞購読が可能

新聞1紙につき1部を延べ2ヶ月の購読が可能

B型・・・3人以上の教師による実践

新聞1紙につき1部を延べ4ヶ月の購読が可能

新規校の場合は指定を受けた年の9月からの実施が可能。継続校の場合は、4月からの実施が可能である。

②新聞記者の派遣を受けることが可能

NIE実践校の指定を受けることにより、新聞記者を特別講師に迎えた授業を展開することが出来る。但し、新聞記者の派遣を要請する場合は以下の事に注意する必要がある。

- (1) 派遣要請は希望日の1月前までに行う必要がある。
- (2) 派遣希望日は第1希望から第3希望までを伝える必要がある。
- (3) 授業で希望する話のテーマと目的を明確に相手側に伝える必要がある。
- (4) 授業の時間、授業を行う教科、生徒数、場所を明確に伝える。
- (5) 授業する場所においてパワーポイント及びビデオの使用の可否を明らかにしておく。

◇実践内容

1. 新聞コーナーの設置

本校は前述するB型の指定であったため、6紙(朝日・毎日・読売・産経・日経・神戸)の購読が可能であり、二学期から4ヶ月に渡り購読を行った。

購読開始と同時に図書室内に「新聞コーナー」を設置し、生徒が自由に閲覧することが可能にした。また、過去の新聞についても各紙ごとにファイリングを行い、新聞コーナーに隣接する場所に陳列することにより、希望する生徒が閲覧出来るようにした。



[図1 図書室内の新聞コーナー]

目的としては、生徒が自由に図書室で新聞を閲覧し、「新聞を読む」という習慣を定着させ、その事を通して国語力を高めると同時に、社会の出来事に対する興味関心を持たせることにあった。しかし、実際には、まず本校生徒の図書室利用者数が極めて低いため、この新聞コーナーがほとんど活用されることがなかった。

そのため、前日の新聞各紙の一面を「今日の一面」として図書室前の壁に掲示することにより、まず生徒が新聞に興味を持ち、「新聞を読んでみよう」という気持ちにさ

せることに重点を移した。

そして、同時に社会科の授業において、「今日の一面」のコーナーの紹介を行うと同時に、教員自身が興味を持った新聞記事や、授業に関係する内容の記事について積極的に紹介を行うことにより、生徒が新聞に対して興味・関心を持たせるようにした。

結果、教室移動の際などに立ち止まって「今日の一面」を読む生徒の姿が見られるようになり、それに伴い、授業や掃除などで図書室を訪れた際に新聞を読む生徒の姿も少数とはいえ見られる様になった。

しかし、新聞コーナーの利用率を上げ、より多くの生徒が新聞を読むようにすることは来年の課題といえる。



[図2 図書室前の「今日の一面」]

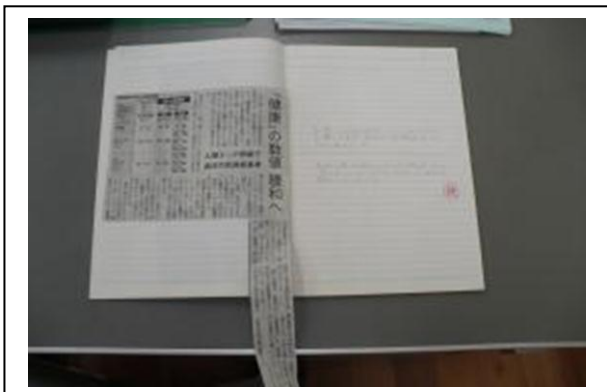
2. 授業におけるスクラップブックの作成

本校では、N I Eの実践校指定以前より、保健の授業で「健康・保健」に関する新聞記事のスクラップブックの作成を長期休業中や、学期中の課題として行っていた。

この課題は、保健の授業を受講する1・2年生全員に対し、数度に渡って行った。

その結果、生徒からは、「保健の授業に対する興味を一層持てるようになった。」「保健についての理解が深まった」などの声が聞かれ、この課題が、生徒に教科に対する

関心を深めさせ、理解を増すことになるということが判明した。



[図3 保健の授業でのスクラップブック]

今回、NIEの実践校の指定を受けて、地歴公民科においても新聞記事のスクラップを長期休業中の課題として行うことにしました。

[概要]

- ・対象生徒：3年生31名
- ・実施科目：現代社会
- ・実施時期：冬休み
- ・冬休み中に自分が気になった記事を5つノートにスクラップする。
- ・スクラップした記事について、記事の内容を自分で要約した上で、記事の感想を書く。
- ・小学生新聞、スポーツ新聞は不可とする。

なお、この課題の実施に際しては、2学期の「現代社会」の授業において、教員側が授業内容に関係する記事を紹介するなどして、生徒の新聞に対する関心を高めた上で行った。

また、生徒の家庭によっては新聞を購読していない家庭も少なからず存在するため、そういった家庭の生徒に対しては、学校の

新聞コーナーにある新聞の記事をコピーしてスクラップを行わせた。



[図4 現代社会でのスクラップブック]

3. 新聞記者を招聘しての特別授業

12月17日に神戸新聞丹波総局の井垣和子記者をお招きし、3年生31名を対象として「新聞が出来るまで」と題し、特別授業を行った。

この授業において井垣記者に事件が記事になるまでの流れや、その過程における新聞記者の仕事などについて具体的な体験談を交えながらお話をしていただいた。

この授業を通じて、生徒達は普段読んでいる新聞がどのような過程を経て作られているかを知ることが出来、新聞に対する興味が一層増すこととなった。また、この授業において、井垣記者に「情報リテラシー」についてもお話をしていただき、生徒は、情報に対して如何に接していけば良いかということも学ぶことが出来た。



[図5 井垣記者をお迎えしての授業]

4. その他の取り組み

その他にも、本校では新聞を用いた様々な取り組みを行っている。

その一つとして、新聞記事の掲示がある。本校では本校生徒が取り上げられた新聞記事をスクラップして外部に配布すると同時にその新聞記事を校舎内の掲示板に掲示していている。この掲示された記事を生徒が見ることによって、生徒が新聞を身近なものと感じるようになる一助になると考えている。



〔図6 掲示板に掲示された新聞記事〕

5. おわりに

今回NIE実践校の指定を受けて新聞を活用した教育活動を行った結果、次の三点の成果があったと考えられる。

第1に、生徒達に新聞に触れる機会を多く作れたことである。

新聞を使用した授業を行う前に生徒に対して「家庭で新聞を購読しているか」を調査したところ、少なくない生徒の家庭で新聞を購読していないことが分かった。また、インターネットのニュースサイトも読んでいない生徒も少なからず見受けられた。この様な生徒に対して学校で新聞に触れさせる機会を作ることは、新聞を通じて社会に関心を持たせる一つのきっかけになったと考えられる。また、新聞を通じ活字に触れ

る機会を多く作れたことも国語的な観点からは良い契機であるといえる。

第二に、通常では得難い貴重な体験が出来たことである。

通常ならば、なかなか新聞記者などを招聘して話を聞くことなどは難しいが、今回NIEの実践を行うことで、新聞記者から貴重な体験談などを伺うことが出来、授業の展開していく上で大いに役立った。

第三に、多くの新聞を無料購読出来たことにより、授業のソースを数多く手に入れられたことである。

現代社会の授業を行っていく上で、「up to date」な話題は必要不可欠である。その話題を新聞から豊富に手に入れられたことは大きな成果であったといえる。また、この点については、他の教科の職員からも「豊富に新聞を読むことが出来て、授業の材料に大いに役立った」という声や、「6紙の購読が4ヶ月だけというのは残念だ」という声が聞かれた。

このことから、来年度以降は、無料購読の4ヶ月以外にも、学校独自でさらに長期間6紙の購読を続けること検討してみる価値があると考えられる。

一方、本年度実施しての課題点としては、「今日の一面」のコーナーに足を止める生徒は増えたものの、図書室の新聞コーナーの利用率が低かったことと、折角お招きした新聞記者の授業をそれ以外の授業の流れにおいて有効活用しきることが出来ず、それ単発の企画になってしまったという点である。

この2点の課題の克服については、今年度の実践の中で解決していきたいと考える。